

## 核兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）ハイレベル記念行事

岸田内閣総理大臣 ステートメント

（令和5年9月19日（火）、於：ニューヨーク）

御来賓の皆様、御列席の皆様、本日はFMCTハイレベル記念行事にお越しいただき感謝申し上げます。

私は、唯一の戦争被爆国である日本の責任ある政治家として、また被爆地広島出身の総理大臣として、いかに道のりが遠く険しいものであったとしても、「核兵器のない世界」に向けた現実的な歩みを一歩ずつ着実に、進めていきたい、そう心に誓っています。私は、核軍縮をライフワークとして、政治家人生を通じ一貫して取り組んでまいりました。

しかしながら現下の国際情勢に照らせば、乗り越えるべき壁は、一層険しいものになりつつあるとの危機感を強めています。ロシアによるウクライナ侵略と核による威嚇は、「核兵器のない世界」への道のりを一層遠ざけるものです。また、核軍縮をめぐる国際社会の分断はますます深まってきています。

今、世界は、冷戦の最盛期以来初めて、核兵器数の減少傾向が逆転しかねない瀬戸際に立っています。特定の国による核戦力の急速な増強は、他の国をも巻き込む核軍拡競争に火をつける可能性もあります。このような事態になれば、世界の各地で、平和を希求して、連綿と紡いで来た我々の努力の灯火が揺らいでしまいます。

そのようなことを防ぐためにも、今こそ、核分裂性物質の生産禁止により、核兵器の量的向上の制限をかけ、世界的な核兵器数の減少傾向を維持していく必要があるのではないのでしょうか。

これこそが、FMCTが達成したいことなのです。核兵器用核分裂性物質の生産を止めること。核兵器の数を根っこのところで抑えよう、という発想です。このFMCTのアイデア自体は、30年前に提案されたものです。それ以来、軍縮の専門家たちは技術的な要素についての議論を重ねてきました。残念ながら、まだFMCTは交渉開始すらできておりませんが、我々は今こそ、FMCTを必要としています。

私自身が出席した昨年（2023年）のNPT運用検討会議では、「ヒロシマ・アクション・プラン」を発表し、FMCTの交渉の早期開始を改めて呼びかけました。また、本年5月のG7広島サミットで発出した「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」においては、FMCTへの政治的関心を再び集めることを全ての国に強く求めました。

核軍縮・不拡散の礎石であるNPT体制への信頼をつなぎとめ、さらなる分断をもたらさないためにも、我々政治リーダーが今、先頭に立つ必要があります。昨年の運用検討会議の結果など、NPTをめぐる現在の状況に、私は強い危機感を覚えています。核兵器国が率先してNPTにおける義務を果たし、全加盟国がそれに呼応してNPT体制の堅持と前進を図らねば、世界の分断を防ぐことは不可能です。

グテーレス国連事務総長が提唱する「新・平和への課題」では、既存の軍縮機関の停滞が指摘され、その再活性化の必要性が掲げられています。私も、今のままの停滞がこれ以上続いていると、核軍縮をめぐる世界は益々分断の度を強めていくのみではないか、と強く危惧しています。NPT体制は、失うには大き過ぎる、人類の共通アセットです。

皆で一緒に考え、知恵を出しましょう。私の「ヒロシマ・アクション・プラン」は、その土台を提供するものです。核兵器数を一層減少させる、透明性を更に向上させるなど、核兵器国が出来ることはまだあるのではないのでしょうか。世界の声に応えるためには、具体的な一歩が必要です。また、非核兵器国も、既存の軍縮機関を再活性化するため、ともに知恵を出し合い、協力していこうではありませんか。

FMC T構想の発表から30年が経過した今、必要なのは、交渉開始のための強い政治的な関心です。私は、本日このイベントに、主要国から多くの政治リーダーが参加したことを心強く思います。このイベントが、FMC Tの議論を再活性化し、早期の交渉開始に向けて取り組む契機となり、引いてはそれがNPT体制の再生・強化につながると確信しています。

対立から協調へ。今日この場で御列席の皆様から表明されたアイディアと情熱が、政治的関心を再び高め、FMC Tの実現、そして、「核兵器のない世界」の実現に向けた核軍縮の主流化に向けた一助となることを願っています。

今日がFMC Tの交渉入りに向けた新たな幕開けとなるよう、共に取り組んでいきましょう。

御静聴ありがとうございました。